平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	ＪＡ全農かながわ
１０７ ※記入不要		

要望問題　中晩生柑橘「はるみ」の品質向上対策技術と新品種の検討について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

＜背景＞
　現在県内には、県西地域を中心に約 214ha の中晩生柑橘類の栽培がある。
特に、経営の中で温州みかんと中晩生柑橘類を組み合わせた、周年供給型の柑橘経営は多様な販売方法と販売促進による収入の周年化、労力の分散等経営上プラスになっている。
しかし、中晩生柑橘類の品種で「はるみ」については、栽培上隔年結果が著しい、果皮が弱い等課題が見られ、経営上不安定要因になっている。

<内容>
　そこで、これらの課題解決に向けた対策技術について要望したい。また、これらの課題解決ができる新たな品種の検討についてもあわせて要望したい。

<対象地域及び規模>
　県西地域を中心に約 214ha

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	根府川試験場

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　(①、②、④の場合)
はるみ風傷果の再現と風傷程度の予測

対応の内容等
　はるみの風傷果再現試験を実施した結果、開花期の灰色病防除と７月の摘果の際キズの少ない果実を残すことで風傷果を減少させることが可能となります。
　隔年結果対策については現在検討を続けています。
　中晩柑の周年化については、「はれひめ」ー「はるみ」ー「麗紅」ー「湘南ゴールド」の組み合わせが有望と考え、検討を行っています。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	